

2015 年度高校生国際協力体験プログラム

実施報告書

○日時：2015年8月7日（金）13：00 ～ 2015年8月9日（日）15：00

○場所：国立大洲青少年交流の家

○目的：四国4県の高校生・引率教員を対象とし、開発途上国の現状や国際協力への理解を深め、地球規模の課題や国際協力への自分自身の関わり方について積極的に考える機会とする。

○参加者：高校生62名、引率教員16名、JICA長期研修員8名、大学生スタッフ2名、講師1名、
JICAスタッフ7名 計96名

○プログラム詳細：

☆1日目：8月7日（金）～知る・体験する～

時間	プログラム	実施場所
12:30	バス到着予定	
12:30～13:00	受付	本館2Fホール
13:00～13:30	開講式／オリエンテーション	
13:30～14:00	施設オリエンテーション（入所式）	
14:00～14:30	高プロの説明、JICAの説明、研修員の説明	
14:30～15:50	学校紹介・研修員紹介	
15:50～16:00	休憩	
16:00～18:00	貿易ゲーム	
18:00～19:00	夕食	
19:00～20:00	宗教講座	本館2Fホール
20:00～20:30	シーツの受渡し	本館地下1階 シーツ等受渡所
20:30～22:00	入浴	
22:30	消灯／就寝	

☆2日目：8月8日（土）～理解する・実践してみる～

時間	プログラム	実施場所
6:30	起床	
7:00	朝の集い	ふれあい広場 (雨の場合：ホール)
7:15～7:30	清掃（各部屋及び割り当てられた清掃箇所）	
7:30～9:00	朝食	
9:00～9:30	協力隊の説明	本館2Fホール
9:30～11:30	協力隊の活動報告&マインドマップ	
11:30～12:00	予備	
12:00～13:30	昼食	
13:30～16:00	☆青年海外協力隊員になってみよう！ (プロジェクト作成)	本館2Fホール
16:00～19:00	夕食（カレー）※研修員との交流	野外炊事場
19:00～20:30	研修員との交流 ※キャンプファイヤー会場	第一営火場
20:30～22:00	入浴	
22:30	消灯／就寝	

☆3日目：8月9日（日）～振り返る～

時間	プログラム	実施場所
6:30	起床	
6:30～7:00	退所準備	
7:00	朝の集い	ふれあい広場 (雨の場合：ホール)
7:15～7:30	清掃（各部屋及び割り当てられた清掃箇所）	
7:30～8:30	朝食	
8:40	参加者は荷物を全て持ってホールへ移動 (※退所点検のため、担当者のみ部屋に残る)	
9:00～11:00	☆青年海外協力隊員になってみよう！ (プロジェクト発表／振り返り)	本館2F ホール
11:00～12:00	☆全体振り返り	
12:00～13:30	昼食	
13:30～14:00	閉会式	本館2F ホール
14:30	解散（バス出発）	

【1日目：8月7日（金）】

〈開会式〉

まず始めに、JICA 四国支部の課長尾上より挨拶。今回は4県から16校が参加し、生徒だけで62名となった。今年度の熱い3日間の始まりである。その後、スタッフの自己紹介を行い、担当の内山より参加にあたっての注意点、連絡事項を伝えた。参加者はまだ表情が堅く緊張している様子であった。



〈施設オリエンテーション〉

施設スタッフより、ビデオを見ながら20分程度、施設利用時の注意点について説明があった。つい1週間ほど前にこの施設では外部から不審者が宿泊棟に入り、財布からお金を盗まれるという盗難事件が発生したと報告があり、参加者は身を引き締めている様子であった。施設利用に関しては、貴重品の保管にロッカー等を利用することで対策していくように連絡した。

〈学校紹介〉

各学校3分程度で学校紹介を行い、学科の紹介や部活動の紹介など、それぞれの学校の特色について説明していた。また、参加者の中にESSなどのクラブ活動を行っている生徒もおり、写真を用いて活動の紹介を行った。学校紹介の最後に、時間が余ったため予定していなかった教員紹介の時間を設けた。ある先生は元々体操をやっていたということで、参加者の前で側転を披露した。先生方の自己紹介は生徒が先生の新たな一面を知るいい機会になったようであった。



＜研修員の紹介＞

学校紹介と教員紹介の後、今回参加する JICA 研修員 8 名の紹介を行った。8 名の研修員がどのような目的で来日しているかについて内山から説明した。その後、研修員から出身国と好きな日本食について日本語で紹介をしてもらった。参加者の高校生は熱心に聞いており、研修員との交流を非常に楽しみにしている様子であった。



＜貿易ゲーム＞（担当：徳島県推進員 久保）

＜ねらい＞

- ① 様々な観点から「貿易」を中心とした世界経済のしくみや現状と課題を学ぶ。
- ② 自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす様々な問題に気づき、経済格差や環境問題等の解決に向け、自身の取り組む姿勢や考える力を育成する。

参加者を 11 グループ（高校生だけのグループ 9 つ、教員と JICA 研修員混成チーム 2 つ）に分け実施。昨年は口頭での説明を日本語で行い、パワーポイントのスライドは英語で実施したが、英語が得意ではない参加者にはルールを確認することが難しくなっている印象を受けたため、今年度は全て日本語で実施。貿易ゲームはその名の通り、各グループを一つの国と見なして、製品を作りマーケットで売る行為を通して、いかにお金を稼ぐかを競うゲームである。しかし、紙や道具がバランスよくあるところもあれば、どちらかだけがあったり、なかったりするところがあり、条件はグループによって様々である。ゲーム終了後、ファシリテーターからゲームの解説を行った。各グループとマーケットまでの距離、マーケットにおける対応の違い、最初に配られた道具や用紙の違い、そういった全てのことが現実世界ではどういったことを表しているのかを説明した。貿易ゲームは一度やったことがあっても、参加者によって結果は違ってくるので面白い。



<宗教講座> (担当：高知県推進員 杉尾)

今年度は2泊3日で開催したため、昨年までに無い新しいプログラムを実施した。それが宗教講座である。世界には3大宗教と呼ばれる宗教がある。それは、キリスト教、イスラム教、仏教であるが、今回は ABE イニシアティブで来日している南スーダンからの研修員、アイシャさんの協力を得て、イスラム教について紹介した。最初に3大宗教に関係する言葉が書かれたカードをグループに配り、それがどの宗教に関連するのかを考えた。その後、イスラム教のコーランを聞き、その意味について理解し、アイシャさんにとってイスラム教とはどんなものなのか、詳しく話をしていただいた。また、今回は特別にお祈り前の清め方やお祈り時のやり方についても披露してもらった。最近ではイスラム教と聞くとあまりいい印象を持たない人が多いように思うが、この講義を通してイスラム教について正しい知識を得ることができたのではないだろうか。また、日本人にとって「宗教」はあまり話題に上がらないものであるが、宗教が生活の中で重要な位置付けとなっている人々がいることも知ることができた。



【2日目 8/8 (土)】

<青年海外協力隊の活動報告&マインドマップ作り> (担当：内山、愛媛県推進員 藤田)

<ねらい>

青年海外協力隊員が派遣されるまでの訓練所での生活の様子や、実際に派遣されてからの活動や現地の人々、また、隊員の暮らしぶりについて知る。

多くの参加者が青年海外協力隊という言葉は聞いたことがあるようだが、実際に職種や派遣前の訓練の様子については知らない人が多かった。JICA スタッフの内山から、職種の数や現在の派遣者数を紹介し、実際に訓練所での生活の様子について写真を見せながら説明した。協力隊の概要説明をした後に、モンゴルに協力隊員としては派遣され活動していた岩田さん（愛媛県出身）にモンゴルでの活動の様子を発表していただいた。写真や動画を使い、参加者が興味を湧くような内容になっていた。また、協力隊の話だけでなく、帰国後に協力隊の経験を日本で伝えていく活動として、自転車による日本一周を行ったことを報告していただいた。日本一周中の2011年に東日本大震災があり、最後の区間を走破できずにいたが、このプログラムの少し前に残りの区間を走り、無事に一周を終えたとのことであった。モンゴルでの経験を多くの日本人に伝える機会を提供し続けた岩田さんの姿から、参加者は多くのことを学んだ様子であった。

岩田さんの活動報告を聞いた後に、実際に参加者が自分の将来についてどんなことを考えているのかについて話し合いを行った。そこでは、まずマインドマップを作成し、自分自身について振り返ると同時に、そのマインドマップを使用しグループ内で自己紹介を行った。昨日とは違う新しいグループであったため、初めの方は硬さが見られたが、グループ内での自己紹介を通して打ち解けたようであった。



<青年海外協力隊になってみよう！プロジェクト作成> (担当：愛媛県推進員 藤田)

昼食後の活動として、マインドマップを作成し自己紹介し合ったグループをそれぞれ2つに分け、午前中よりもより少ない人数でグループワークを行った。各グループにいくつかの国の様々な場面の写真を配り（元々同じグループの2グループには同じ写真を配っている）、その写真の提供者に写真の詳細について質問するなどして、写真から読み取れる課題や問題点についてグループ内で話し合った。紙に書く際には、単に模造紙に書くのではなく4コマ漫画のような形で記入した。このやり方は、今年度取り入れた新しい方法である。その後、2つのグループを1つに戻し、別々に考えていた課題や問題点を共有し、自分達でどんなことができるかを議論した。そして、グループで問題点を挙げ、それを解決するためのプロジェクトを考え、紙にまとめた。どのグループもスムーズに作成できていたようである。



<野外炊飯>

昨年度のアンケートにおいて、参加者や研修員との交流の時間が少なく、もっと一緒に何かやりたかったという意見があったため、今年度は野外炊飯をプログラムに盛り込んだ。また、このプログラムの後に、JICA 研修員との交流プログラムを用意していたため、野外炊飯を通して、研修員との距離を縮めてほしいという思いもあった。研修員がグループに1人ずつ入り、野菜を切り、米を研ぐところから一緒に調理した。研修員と一緒に楽しく調理しながら、参加者は緊張することなく積極的に交流できていた。全員で協力して作り上げたカレーの味は格別であった。後片付けは非常に細かいチェックがあり、洗い直しさせられているグループもあったが、楽しく、おいしい夕飯の時間となった。



<JICA 研修員との交流> (担当：JICA 研修員 8名、徳島県推進員 久保)

まず初めに、点火前のキャンプファイヤーを全員で囲み、参加者数人からこれまでの感想を聞いた。辺りが暗くなり始め、いよいよ点火。夜の交流の時間のスタート。初めに、パプアニューギニアのダダバナさんから「Say hello」という歌の紹介をしてもらい、全員で歌った。恥ずかしがっている参加者もいたが、緊張を解すにはいい活動となった。その後、参加者にグループを作ってもらい、研修員にはそれぞれのグループに入ってもらい、フリートークの時間とした。研修員は自分の国を紹介する写真を持っており、その写真や国の紹介を聞いて質問する生徒や、自分で考えてきた質問を積極的にする生徒もあり、非常に盛り上がった。時間の関係で2名の研修員としか話すことができなかつたことが残念であった。その後、モザンビークからの研修員2名によるモザンビークの伝統のダンスの紹介があった。このダンスは、ユネスコの無形世界遺産に登録されており、音楽に合わせて非常に激しく踊るダンスである。日本にはない独特のリズム振り付けに戸惑っている参加者もいたが、最後は、全員が一つになって踊ることができた。



【3日目 (8/9 (日))】

＜青年海外協力隊になってみよう！プロジェクト発表（担当：愛媛県推進員 藤田）＞

前日に作成したプロジェクトをグループごとに発表した。発表では、学習環境や生活環境の改善、インフラ整備、保健などの分野に焦点を当てたプロジェクトが多かった。グループ毎に発表の仕方は自由である。あるグループは男子生徒二人で押し車を見せながら馬車を再現するなど、見ていて非常に面白い発表であった。プロジェクトの内容について、JICA スタッフ及び写真の提供者からコメントをした。どのグループもそれぞれのメンバーが持っている知識を十分に活かした素晴らしい発表であった。今回は、生徒だけでなく、教員グループと JICA 研修員グループも作り、プロジェクトを発表した。



＜ふりかえり＞（担当：高知県推進員 杉尾）

事前学習と同じく、「国際協力」をテーマに思いついたキーワードを書き出す活動を行なった。これは事前学習で一度行っているワークであるが、事前学習時と比較し、どのような変化があったかを参加者自身を知ることができた。出てくる単語の数が多くなった学校もあれば、少なくなった学校もあった。多くなった学校は、この3日間で色々な言葉を知ることができたようである。少なくなった学校は、知識を得ることができなかったということではなく、これまでバラバラだったものを高プロを通してまとめることができ、より少ない言葉で表すことができたからである。この3日間のプログラムを通して、参加生徒の成長を感じることができ、参加者自身もそれに気付くことができたのではないかと思う。最後に全員で集合写真を撮り、3日間の全てのプログラムを無事終了した。



<集合写真>



<参加者の声>

- ・ JICA の勉強はもちろんだけど、他校の人々と交流することができるといった面でも、このプログラムに魅力を感じました。今後も、国際に興味を持って勉強したいです。
- ・ グループでの活動がすごく楽しくて充実した2日間を過ごせました。キャンプファイヤーの後の研修員さんとの交流もすごく楽しかったです。
- ・ 本当に本当に来てよかった。素敵な出会いが沢山ありました。考えも成長できた。高校生活トップ5に入る思い出です。ありがとうございました。
- ・ 大変楽しく活動できました。沢山のサポートに感謝です。将来必ず世界の困っている人の助けをします！

<引率教員の声>

- ・ 実際に海外協力隊として派遣された方のお話は説得力があり、その話を聞くだけでも価値があった。
- ・ 3日間で生徒の成長をひしひしと感じる良いプログラムだった。
- ・ 教員同士で交流できてよかった。
- ・ プロジェクト作りで JICA の仕事を一部体験することで、一つのものを皆で成し遂げる達成感を味わえた。